

二〇二四年五月二七日

手裏劍の如宙を切るつばくらめ
蔵壁の破れを覆ふ若葉影
園児らの覗き込みたる蝌蚪の国
傘たたむミストのごとき若葉雨

山椒
かえる
康子
むべ

二〇二四年五月二六日

樹下涼し溪よりとどく瀬音また
生鱧を海へほり投げ豊漁祭

かえる
千鶴

二〇二四年五月二五日

薔薇アーチ通りぬけ来し風匂ふ
迷ひつつビルの谷間を白日傘
神官の裾ひるがえる山開き
松の芯つまむ庭師の指太し
泉湧く水の揺らぎの留まらず
本殿の鴟尾夏空へ跳ねにけり

むべ
あひる
みきお
かえる
かえる
もとこ

二〇二四年五月二四日

竿に干す産着真つ白五月晴
田水張る高き信濃の空映し
水晶の雨粒まろぶ蓮浮葉
蚊いぶしに吾もいぶられて庭手入
里山をつつむ五彩の緑かな
犬養節流れ万葉館涼し

康子
風民
康子
せいじ
せつ子
明日香

二〇二四年五月二三日

母の日や漢字も使ふ手紙来て
新茶酌む夫手びねりの湯呑かな
藤棚の下に集合清掃日
彌陀三尊倭坐りに五月闇
白絲を引く雨だれや夏館

もとこ
満天
たか子
うつぎ
むべ

二〇二四年五月二二日

花殻を集めし袋薔薇香る
清流の岩に宿りし落椿
ドローンめく鴉代田に降りたちぬ
風孕みシート膨らむ皐月晴
春陰に御目光れる不動尊
薄紅と深紅の出会ふ薔薇アーチ

むべ
ぼんこ
せいじ
かえる
うつぎ
むべ

二〇二四年五月二一日

川風に吹き攫はれし糸とんぼ
青空の青もらひたるしやぼん玉

風民
康子

毎日句会みのる選・二〇二四年五月一九日